外国語教育メディア学会（LET）
第 97 回（2021 年度秋季）
中部支部研究大会

プログラム

大会テーマ

「学習者の知識を理解して第二言語の学習・指導を考える」

日時　2021 年 12 月 11 日（土）10:00-17:00
会場　オンライン（Zoom 使用）
実行委員会本部：金沢学院大学文学部
〒920-1392 石川県金沢市末町 10

研究大会実行委員長　坂東 貴夫（金沢学院大学）
副実行委員長　福田 純也（中央大学）

主催　外国語教育メディア学会（LET）中部支部
後援　石川県教育委員会・金沢市教育委員会

問い合わせ先：外国語教育メディア学会（LET）中部支部事務局
事務局長　工藤 泰三（名古屋学院大学）taizo@ngu.ac.jp

参加申込締切は 12 月 8 日（水）です

大会 HP はこちら（http://bit.ly/LETC2021Fall）→

時 程

……

9:30　　Zoom 入室受付開始【Zoom Room 1】
（9:50 - 10:00　賛助会員ビデオ放映）

……

10:00 - 10:10　開会式　【Zoom Room 1】

司会：坂東 貴夫（金沢学院大学）
主催者挨拶：高橋 美由紀
（中部支部支部長・鈴鹿大学）
開催校挨拶：坂東 貴夫（金沢学院大学）
事務連絡：工藤 泰三
（中部支部事務局長・名古屋学院大学）

……

10:15 - 12:00　講演　【Zoom Room 1】

司会・講師紹介：坂東 貴夫（金沢学院大学）
講師：大関 浩美（麗澤大学）

外国語教室での口頭訂正フィードバック　～研究成果と教育現場への応用～

目標言語を問わず、外国語を教える教育現場では、学習者の誤用に対してどのような訂正フィードバックを行うかは教師の頭を悩ませる問題であり、また、第二言語習得研究の分野でも、近年、口頭訂正フィードバックに関する研究が盛んに行なわれている。口頭訂正フィードバック研究は、理論的貢献度も高く、教育現場での実践にも直接結びつくトピックである。そもそも誤りの訂正には効果があるのだろうか。あるのであれば、どのような誤りを、どう訂正したらいいのだろうか。

本講演では、第二言語習得の観点から、口頭訂正フィードバックの役割・効果について考える。まず、学習者の言語発達には何が必要なのかということに関する理論や仮説と口頭訂正フィードバックとの関係を整理しながら、様々な形の口頭訂正フィードバックのタイプと特徴および理論的背景を考え、また論点を整理する。続いて、口頭訂正フィードバックの効果に関する最新の研究成果について紹介し、さらに、どのように教育現場へ応用できるかを考える。口頭訂正フィードバックに関する理論と実践の橋渡しができるような話にしたいと考えている。

……

……

12:00 – 13:40　昼食・ランチョンセミナー　【Zoom Room 1】

司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）

12:45-13:00 株式会社 **EdulinX（https://www.reallyenglish.co.jp/）**

13:00-13:15 株式会社アルク **（https://www.alc-education.co.jp/）**

13:15-13:30 株式会社松柏社**（www.shohakusha.com）**

……

13:40 – 15:20　研究発表・実践報告・ワークショップ

（発表概要は pp. 5-7 をご参照ください）

(1) 13:40 - 14:10　(2) 14:15 – 14:45　(3) 14:50 – 15:20

第 1 室【Zoom Room 1】　　司会：小島 ますみ（岐阜市立女子短期大学）

(1) 日本人高校生 EFL 学習者による言語パターンの一般化 : データ駆動型学習の理論的基盤の実証【研究発表】

中原 涼介（名古屋大学大学院）

(2) 名詞句に関する発達段階説の検証―日本語母語英語学習者と英語母語話者のエッセイの比較分析―【研究発表】

野村 奈々花（名古屋大学大学院）

(3) 日本人英語学習者の非総称 the 習得における用法別困難度と習熟度および生起位置の影響【研究発表】

寺井 雅人（名古屋大学大学院）・橋崎 諒太郎（名古屋大学大学院）・中原 涼介（名古屋大学大学院）

第 2 室【Zoom Room 2】　　司会：伊藤 佳貴（大同大学大同高等学校）

(1) シャドーイング活動における学習者によるモデル音声速度制御の効果【研究発表】

古泉 隆（名古屋大学）

(2) 小学校外国語教育におけるタブレットを活用した主体的な学び【実践報告】

高橋 美由紀（鈴鹿大学）

(3) 参考文献一覧におけるデジタルオブジェクト識別子（DOI）の付与 ―学生や現職教員の論文執筆を支援するための小講義―【ワークショップ】

天野 修一（広島大学）

……

……

15:30 – 17:00 シンポジウム 【**Zoom Room 1**】

「日本の小・中学はどのような英語知識をどのように発達させているのか
—第二言語習得研究における暗示的・明示的知識の観点から—」

司会：鈴木 渉（宮城教育大学）
シンポジスト： 酒井 英樹（信州大学学術研究院 教授）
内野 駿介（北海道教育大学札幌校 准教授）
鈴木 渉（宮城教育大学教職大学院 教授）

日本の児童生徒は教室で英語を学んでいるが、どのような知識を習得し、発達させていくのだろうか。この問いは第二言語習得研究上非常に重要な研究テーマである。本シンポジウムでは、まず、司会の鈴木が英語学習における暗示的・明示的知識の役割について先行研究を概観する。次いで、酒井が中学生の文法知識の発達に関する実証的な研究を、内野が小学生の文法知識に関する実証的な研究をそれぞれ報告する。最後に、今後の研究の方向性や、これらの研究の教育的示唆について、3 人で議論したり、聴衆とのやり取りをしたりしたい。

……

17:00 - 閉会式 【**Zoom Room 1**】

司会：坂東 貴夫（金沢学院大学）
主催者挨拶：柴田 里実
（中部支部副支部長・常葉大学）
事務連絡等：工藤 泰三
（中部支部事務局長・名古屋学院大学）

（今大会は懇親会はありません）

発表概要

第 1 室【Zoom Room 1】

(1) 日本人高校生 EFL 学習者による言語パターンの一般化：データ駆動型学習の理論的基盤の実証【研究発表】

中原 涼介（名古屋大学大学院）

データ駆動型学習(DDL)は用法基盤モデルに基づく学習法とされるが、その理論的基盤の検証は未だ不十分である。本研究では日本人高校生 43 名を対象に、学習者が DDL を通した豊富なインプットから、動詞の用例のパターンを一般化することができるか検証した。参加者は、与格交替可能な throw クラスの動詞 6 語および、不可能な whisper クラスの動詞 6 語から各 3 語ずつのみ DDL で用例を学習した。また、参加者は学習の前と後で、両クラス全ての動詞について二重目的語構文(DO)で使われる場合と to 与格構文(PD)で使われる場合の文法性を−3 〜 3 の 7 段階で評価した。その結果、学習をした動詞だけでなく、学習していない動詞についても、throw クラスは両構文において評価値が 3 に近づき、whisper クラスは PD では 3 に、DO では−3 に近づいた。分散分析の結果、評価値の変動は統計的に有意であった。よって学習者は DDL を通して、動詞の意味的類似性に基づいた用例の一般化をしていることが示唆された。

(2) 名詞句に関する発達段階説の検証―日本語母語英語学習者と英語母語話者のエッセイの比較分析―【研究発表】

野村 奈々花（名古屋大学大学院）

本研究では、第二言語習得における名詞句の発達段階説について、日本語母語英語学習者のエッセイを用いた分析を通してその普遍性を検証する。調査対象は、英文エッセイを集めた学習者コーパス NICER の日本人英語学習者 35 ファイル、英語母語話者 9 ファイルとし、調査項目は、仮説内で発達段階のステージが 2 から 5 まで割り振られている名詞句 12 個に、仮説に含まれていない 17 個を加えた名詞句 29 個とした。100 語あたりの使用頻度、使用比率、母語話者による学習者の修正率を、学習者対母語話者間、また学習者の Criterion のライティングスコア間で比較した。その結果、学習者は母語話者に比べ 22 個の名詞句において使用頻度が低く、また前置修飾の使用率が高かった。さらに、学習者のスコア間の比較から、同じステージ内の特徴でも発達難易度に違いがあることが示唆された。そこで、既存の仮説を再考し日本語母語英語学習者における名詞句の発達段階を新たに提案する。

(3) 日本人英語学習者の非総称 the 習得における用法別困難度と習熟度および生起位置の影響【研究発表】

寺井 雅人（名古屋大学大学院）・橋崎 諒太郎（名古屋大学大学院）・中原 涼介（名古屋大学大学院）

外国語学習者の冠詞習得に関する先行研究では、聞き手が知っている特定の対象を指す定冠詞の用法が、Situation（初出だが対話者には既知の名詞につく）、Structure（修飾されている名詞につく）、Text（言及された名詞につく）、Culture（その言語を話す集団で広く唯一なものと知られる名詞につく）の 4 つに分類されている。さらに、これらの用法は困難さが異なり、特に Culture 用法は習熟度が向上しても習得が行われにくいとされる。本研究では、日本人 41 名を対象に 91 項目からなる冠詞穴埋め課題を実施し、先行研究の結果が再現されるか検証した。また、これまであまり着目されていない、定冠詞が生起する位置の影響も検討した。一般化線形混合モデルによる分析の結果、Culture 用法は最も困難であり、外国語の習熟度が向上しても習得が進まないという先行研究の結

果が再現された。また、Culture 用法のみ文中に生起する場合の誤用が、文頭に生起する場合に比べ多いことも明らかとなった。

第 2 室【Zoom Room 2】

(1) シャドーイング活動における学習者によるモデル音声速度制御の効果【研究発表】

古泉 隆（名古屋大学）

シャドーイング活動においては、学習者のレベルより若干易しい教材を用いるのが適切とされているが、授業で同一の教材を用いる際などは、全ての学習者にとって適切な難易度とならない場合がある。シャドーイング教材の難易度に関わる要因の一つにモデル音声の速度があるが、これを学習者自身が制御することで難易度が適切化され学習効果が得られるであろうか。本研究では、開発したスマホ教材を使用し、モデル音声の速度を変更（遅く・速く）できる実験群と速度が一定の統制群を設け、大学生４９名に、２週間のシャドーイング活動を実施した。事前・事後にリスニングおよびスピーキングテストを実施し、分散分析の結果、リスニングテストの得点については実験群にのみ伸びが見られた。スピーキングテストの得点については、実験群および統制群ともに一様に伸びがあった。発表では、学習者の速度変更の動向をふまえ、音声速度制御の効果を論じたい。

(2) 小学校外国語教育におけるタブレットを活用した主体的な学び【実践報告】

高橋 美由紀（鈴鹿大学）

文部科学省は、小学校外国語教育において、「主体的な学び」について、①学ぶことに興味や関心を持たせる、②毎時間見通しを持って粘り強く取り組む、③自らの学習をまとめ振り返り次につなげることを提示している。一方、「一人一台端末」の活用について、「遠隔地の学校等との交流」「プレゼンテーションの準備や動画などの作成・共有」等の言語活動を通して「4 技能のバランスのとれた育成が期待できる」と言及している。

本発表では、タブレット端末を活用した小学校外国語教育の「主体的な学び」に焦点をあてた授業と評価の研究として、①愛知県 M 小学校の「オリジナルカレーのトッピングと栄養素を伝え合う授業」、②三重県 S 小学校の「自分の町を他校の友達に紹介する授業」を紹介し、「調べ学習」「資料の作成」「動画での発信＝交流」「実践的なやり取り」等の効果的な授業づくりと評価のあり方について提案する。

(3) 参考文献一覧におけるデジタルオブジェクト識別子（DOI）の付与 ―学生や現職教員の論文執筆を支援するための小講義―【ワークショップ】

天野 修一（広島大学）

本ワークショップはゼミが決まったばかりの学部生や研究経験の浅い大学院生，幼保小中高の現職の先生方など初めての論文執筆を志す将来の投稿者候補を対象に，投稿上の必須事項を学ぶ機会の提供を目的として開催するものである。DOI は Digital Object Identifier の頭文字を繋げて作られた頭字語であり，ウェブ上で公開されている文献を管理するために付与された文字列のことを指す。DOI は経験を積んだ大学院生や研究者にとってはすでに常識となっているが，初めての論文執筆に取り組む学生や現職教員にとっては越えなければならないハードルの一つといえるだろう。しかしながら，DOI が一体何のためにあって，自分の論文にはどう記載するべきものであるのかをじっくり学ぶ機会は，限られているのが現状ではないか。そこで，本ワークショップは，DOI の起源，必要性，調べ方，記載方法を，ゆっくり順を追って講義する。

賛助会員ビデオ放映

- 株式会社三修社（**https://www.sanshusha.co.jp/**）
- 株式会社大修館書店（**https://www.sanshusha.co.jp/**）
- 株式会社 **EdulinX**（**https://www.reallyenglish.co.jp/**）

昼食 各自でお取りください。ランチョンセミナーもぜひご参加ください。

懇親会 今回は懇親会は開催いたしません。

大会参加申込用
QR コード

大会参加のご案内

- ご参加には事前申し込みが必要です。12 月 8 日までに Google フォームよりお申し込みください。URL は https://forms.gle/u6u71DbybrGmE4U88 です（右上の QR コードもご利用いただけます）。
- 発表者の方も参加申し込みをお願いいたします。
- 今回は会員・非会員とも参加費は無料です。
- 今回は Zoom を用いてオンラインで開催いたします。Zoom のミーティング ID およびパスコードは、参加申し込みをされた方に大会前日までにメールでお知らせいたします（ID・PC は各 Room で異なります）。なお、ログインの際はお名前を本名の表示（漢字・かな、またはアルファベット）にし、発言されるとき以外はマイクを OFF にしてください。
- 発表者の方は、発表開始 5 分前までにご自身の発表会場となる Room にログインしてください。
- 発表時には、発表者は画面共有機能を使うことができます。

以上

新規ご入会案内

- 会員になられますと、LET 全国研究大会（年 1 回）や支部研究大会（年 2 回）での研究発表・実践報告、紀要への投稿などをしていただくことができます。
- LET 本部サイト（下記）にて入会登録をしていただくと仮会員になります。仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます。なお、年会費は次の通りです。

個人会員：年額 6,000 円　／　学生会員：年額 3,000 円　／　団体会員：年額 6,000 円

- 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります（3 ヶ月以内にお手続きをお願いします）。

会員登録、会員情報の更新は
LET 本部サイト（https://www.j-let.org/）からお願いします →